

普段着のわたし、ステキにいいこと

COMVO **コンボ**
communication x volunteer

TAKE FREE!
ご自由にお取りください

10 月号

October.2011 vol.162

特集

誰も取り残されることのない 災害支援

～ N P O の支援現場から学ぶ～



コミュニケーション(communication)とボランティア(volunteer)を組み合わせた造語です。本誌は「暮らし・笑顔・自分らしさ」を大切に、人と出会うこと、多様な価値観に触れること、新しい何かを創ることの面白さをお届けするボランティア活動情報誌です。

01

目次

24区ボランティアビューロー 一覧・OCVICからのお知らせ おくびく

02

特集

誰も取り残されることのない災害支援
~ NPOの支援現場から学ぶ ~

05

情報マーケット

ボランティア募集、イベント・セミナー・講座情報、助成金などの情報

OCVIC相談会

サロン開催情報

ちょっとブレイク 「あべこべになりやすい、手段と目的」

大阪市信用金庫社会貢献トピックス

12

COMVOな人【vol.09 村井裕次郎さん、西田雅崇さん】 こんぼ

13

OCVICインフォメーション おくびく

14

読者プレゼント

今月の表紙



「日常の一コマの向こう側」

「この洗濯もん、取ってくれへん？」
「ええよ」 - 何も飾り立てることがない、ただそれだけの日常の一コマ。例えば、年齢・性別・生まれたルーツや障がいの有無、趣味や嗜好、性格など、私たちはそれぞれに異なる背景を持って日々暮らしていますが、そういう「違う」ということを無意識のうちに尊重し互いにそのまま認め合える関係が、この一コマの向こう側にはしっかりと築かれているのかもしれない。



OCVICからのお知らせ おくびく

ボランティア活動情報誌「COMVO」に広告を掲載しませんか？ コンボ

多方面に配布・設置し、新規・継続の読者バランスも良く、高い周知力があります。注目度が高まるボランティア・市民活動に関する、全国的に見てもまれなほど本格的なボランティア活動情報誌「COMVO」に広告を掲載しませんか。

体裁・発行部数/B5判 16頁(フルカラー) 毎月15日 40,000部 主な配布先/本誌P.14下段をご覧ください。

問合せ: 06-67665-4041 (大阪市ボランティア情報センター) 詳細は <http://comvo.weblogs.jp/> でご覧いただけます。

24区ボランティアビューロー 一覧

ボランティア活動に関するご相談をお気軽にお寄せください。

区名	所在地	電話(06)	FAX(06)	区名	所在地	電話(06)	FAX(06)
北	北区神山町15-11 北区在宅サービスセンターいきいきネット	6313-5566	6313-2921	東淀川	東淀川区菅原4-4-37 東淀川区在宅サービスセンターほほえみ	6370-1630	6370-7330
都島	都島区都島本通3-12-31 ふれあいセンター都島	6929-9500	6929-9504	東成	東成区大今里南3-11-2 東成区在宅サービスセンターひがしなり	6977-7031	6977-7038
福島	福島区海老江6-2-22 あいあいセンター	6454-0531	6454-6331	生野	生野区勝山北3-13-20 生野区在宅サービスセンターおかちやま	6712-3101	6712-3001
此花	此花区伝法3-2-27 此花ふれあいセンター	6462-1224	6462-1984	旭	旭区高殿6-16-1 あさひあつたかセンター	6957-2200	6957-7282
中央	中央区上本町西2-5-25 ふれあいセンターもも	6763-8139	6763-8151	城東	城東区中央2-11-16 城東区在宅サービスセンターゆうゆう	6936-1153	6936-1154
西	西区新町4-5-14 西区在宅サービスセンターにしがほり	6539-8075	6539-8073	鶴見	鶴見区諸口5-浜6-12 鶴見区在宅サービスセンター	6913-7070	6913-7676
港	港区弁天2-15-1 港区在宅サービスセンターひまわり	6575-1212	6575-1025	阿倍野	阿倍野区帝塚山1-3-8 阿倍野区在宅サービスセンター	6628-3434	6628-9393
大正	大正区小林西1-14-3 大正区ふれあい福祉センター	6555-7575	6555-0687	住之江	住之江区御崎4-6-10 住之江区在宅サービスセンターさざなみ	6686-2234	6686-0400
天王寺	天王寺区六万町5-26 天王寺区在宅サービスセンターゆうあい	6774-3377	6774-3399	住吉	住吉区浅香1-8-47 住吉区在宅サービスセンターいきいき	6607-8181	6692-8813
浪速	浪速区難波中3-8-8 浪速区在宅サービスセンター	6636-6027	6636-6028	東住吉	東住吉区田辺2-10-18 さわやかセンター	6628-2020	6622-8973
西淀川	西淀川区千舟2-7-7 西淀川区在宅サービスセンターふくふく	6478-2941	6478-2945	平野	平野区平野東2-1-30 にこにこセンター	6795-2200	6795-2929
淀川	淀川区三国本町2-14-3 淀川区在宅サービスセンターやすらぎ	6394-2900	6394-2978	西成	西成区岸里1-5-20 西成区在宅サービスセンターはぎのさと	6656-0067	6656-0083



誰も取り残されることのない 災害支援

～NPOの支援現場から学ぶ～

災害時、多くの人々が逃げ惑い、混乱や困難に直面しますが、例えば高齢者や小さな子どもを抱えた人、障がいのある人や外国にルーツのある人などは、より深刻な状況に追い込まれてしまいます。どのようにすればそのような状況を回避することができ、支援から取り残されことなく共に支え合い、生きていく道を探れるのかを、今回は、阪神・淡路大震災以降、一貫して自然災害で被災した障がい者を支援してきたNPO法人「ゆめ・風基金」による支援活動を通じて考えます。

避難所に障がい者が いない理由

「発災当初から避難所をいくら回っても、障がい者の姿は見えず、とくに重い障がいのある人ほど、なかなか会えませんでした」と話すのはNPO法人「ゆめ・風基金」事務局長の橋高千秋さん。

その理由は障がい者にとって避難所が居づらい場所だからに他なりません。「障がいと一口にいても、どこに障がいがあるかによって必要なケアや環境が違うんです。24時間介護が必要な人、人工肛門を使用している人、常時痰の吸引が必要な人、目も耳も不自由で情報が得られない人、大勢の人に囲まれるとパニックを起こし叫び出してしまう人…それぞれ個別の支援が必要で、その支援がなければ生命の危機にさらされてしまうんです」と橋高さん。にもかかわらず、多くの避難所では、障がいのある人たちのための配慮はほとんどありません。「避難所に逃げられない障がい者は、おそらく自宅ですっきりとしているか、親戚の家に身を寄せるか、施設にいるか。阪神・淡路大震災では、せつかく命が助かって、必要な支援が届かず亡くなる「関連死」が数多くありましたが、その教訓は活かされているとは言いがたい状況です」と橋高さんは振り返ります。

個人レベルの きめ細やかな支援

同基金では、発災1週間後の3月18日から現地に入り、4月の半ばにかけて、地元の障害者団体とともに、宮城県、福島県、岩手県に「被災地障がい者支援センター」を立ち上げ、センターを拠点に活動を展開しています。

まずは避難所や福祉施設を訪ね、安否確認と被災状況の聞き取りやニーズ調査、その上で物資・資金支援にあたります。並行して、行政、福祉サービスを提供する事業所、地元住民などから得られる情報を頼りに、支援を待っている障がい者を一人ずつ探していきます。

6月半ば頃からは、支援センターの活動が口コミで広がり、徐々に個人宅への人的支援に切り替わっていきました。そこで出会うのは、避難所にしたものの横になれず2週間車いすに座ったまま我慢していた人、知的障がいのある子が「声をあげる」からと避

難所を追い出され自家用車の中で暮らす一家、福祉避難所を訪ねてみれば、利用しているのは高齢者ばかりで、避難を断念した障がい者など…。このように地域社会から取り残された障がい者を、センターでは、それぞれの困難な状況を丁寧に関心取り、入浴や見守り、移動介助など、できる範囲で一人一人にきめ細やかな支援を行っていきます。

さらに原発事故という要素も加わっている福島県では、放射能汚染から逃れるための避難先として、同基金は新潟後方支援センターを立ち上げ、受け入れ態勢を整えました。

これらの活動を支えているのは、阪神・淡路大震災以降16年間、全国の障がい者団体と顔の見える関係づくりを行い、「ゆめ・風」なら当事者に届けてくれる」という信頼感。これまでに託された基金約2億円のほかに、震災後1億7千万円の寄付を集め、既に7千万円を実際の支援に活用しています。「こんな時のための基金」すぐ

に「直接届ける」のが私たちの使命です」と橋高さんは話します。

「どうしたら自立できる？」 抑えていた胸の内をあかす

同基金では、7月から、関西の障がい者が被災地の障がい者を支援する「障害者派遣プロジェクト」をスタートさせました。同じ障がい者でもこの違い、考え方もおかれた環境も異なります。関西の障がい者が被災地を歩いて感じたのは、道行く障がい者が極端に少ないこと、「自立したい」と声をあげる人がいないことでした。しかし、自立したいと考える障がい者はたくさんいたのです。

「外へ出たい」「自分で使えるお金がほしい」と抑えていた要望を口にすると、ガイドヘルパーって何？」「どうやって自立できるの？」「具体的な方法を尋ねる人がいるんです。まさに、障がい当事者だからこそ引き出せた本音でしょう。関西の障がい者と出会ったことで、被災地の障がい当事者にとって、「自分らしい社会生活」が夢物語ではなくなったのだと思えます」と橋高さん。

派遣された障がい者の中には、自分たちの役割に手応えを感じて、被災地に支援センターをつくるう」と張り切っている人もいます。「自立したい」という被災した障がい者の願いを実現するために今、同基金では、障がい者同士が交流できる場を被災



1 3月末から10回以上続けている街頭募金。障がい当事者らがいまま訴え続けている。2 通院ができないリウマチ患者を専用の車で送迎（岩手県山田町）3 「被災地障がい者支援センターふくしま」は4月6日に設立。いずれも写真提供：ゆめ・風基金

障がいのある人たちが もっと身近に感じて

障がい者が地域社会から見えにくくなっている背景を、宮城県の当事者団体たすけっと代表の及川智さんはブログにこう綴っています。「災害時、障害者は普段からの支援者からしか支援が受けられない（ことが多い）。もっと広い関係性を持つことが重要だと反省も込めて思う」。また、同基金理事の八幡隆司さんはこう話してい

ます。「例えば自治会や学校など、地域でいる人々と一緒に避難訓練ができれば、顔見知りになり、知的障がいのある子であってもパニックを起こさずすむかもしれません。一緒にい

る機会の中で、この子は声をあげるものなんや」と周囲が理解すれば、人間関係も生まれます。またそうしたことが、健常者中心の避難所運営を変えることにつながります。さらには、また障がい者と避難所で一緒に過ごした経験は、特に子どもたちにとって貴重な宝になります。

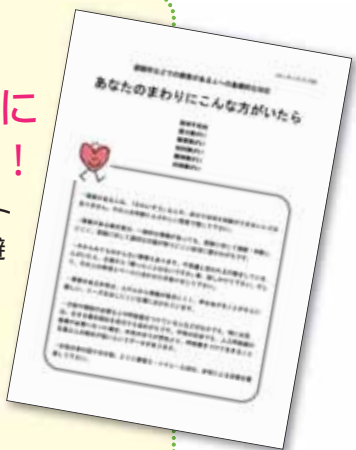
障がいのある人に限らず、小さな子どもを抱えた人や外国籍住民、個別の事情を抱えた人が、災害時、少しでも安心して生活を立て直すために地域社会でできること。一人一人がふだんから、共に生きる住民として、そうした人の存在や個性を意識すること、そして出会い、語り合うことではないでしょうか。災害時には、互いに何が困るのか、想像力を働かせ、じっくり考える機会を持つこともいいかもしれません。



NPO法人ゆめ・風基金
事務局長の橋高千秋さん

地域での 避難所訓練などに ぜひ取り入れて！

DPI女性障害者ネットワーク（東京都）が「避難所などでの障害がある人への基礎的な対応」を簡単にまとめた資料を作成、インターネット上で公開しています（下記に一部を抜粋）。災害時に限らず日常から大切な視点が記されています。
http://yumekaze.in.coocan.jp/d1/tohoku11/support_tohoku11.pdf



「障害のある人に 共通して望まれる支援」

- 1 移動しやすい環境の整備（段差の解消、通路の幅の確保、障害物を置かない等）が必要。
車いすが通れる通路（直線）の幅は90cm以上必要。
案内所・物資配布所・トイレ等の表示は、大きい表示板・色別テープなどでわかりやすく。
- 2 集団生活に適応しにくい人々には二次的避難所を設ける。
できるだけその人の事情が分かっている人と共に過ごすことができるような配慮。
避難生活のなかで、トイレや着替え等女性のプライバシーを確保し、安全対策をとることが必要。 など
問合せ dpiwomen@gmail.com

ずっと続けていく被災障害者支援プロジェクト

東北 - 関西障害者支援「ポジティブ生活文化交流祭 vol.1」
東日本大震災の支援活動を通じて当事者やボランティア、たくさんのお会いがありました。これを機に東北と関西がしっかりとつながり、息の長い支援を楽しみながら続けていくために、お互いの生活文化や表現活動で交流しようという初めての試み。歌あり、踊りあり、バザー・屋台あり。出展希望も募集中です。
日時：11月23日（水・祝）午前11時～午後6時
会場：扇町公園・山西記念福祉会館（大阪市北区）
問合せ：NPO法人日常生活支援ネットワーク（担当：椎名）
TEL：06-6649-0455 Eメール po-net@e-sora.net P.09に関連記事あり

「ゆめ・風基金」が届けた救援金：77,294,600円（7月1日現在）

活用例：【3月12日】神戸NGO協働センターの被災障害者調査に50万円 / 【3月28日】自立生活センター郡山（福島県いわき市）の障害者救援活動に100万円 / 【4月8日】宮城県仙台市すまいる作業所の豆腐製造用のポイラー全損による再購入費115万5000円 / 【4月12日】NPO法人みどり会（仙台）施設再建に150万円 / 【4月22日】被災障害者の緊急避難所（新潟市）の風呂改造に150万円 / 【6月3日】全国パーキンソン病友の会福島県支部の障害者救援活動に10万円 / 【6月28日】障害者63人の働く場「社福法人みのり会（名取市）」の再建に375万円（同基金ブログから抜粋して転載）
ゆめ・風基金救援金送金先 郵便振替口座 00980-7-40043
[問合せ] ゆめ・風基金事務局 東淀川区東中島1-14-1 TEL：06-6324-7702 FAX：06-6321-5662

ちょっと☕️ ブレイク

「あべこべになりやすい、 手段と目的」

「放っておけない」という衝動や「何か力になりたい」という共感から行動を起こしたボランティアな活動。例えば「な社会状況を改善させたい」「共感の輪を広げて社会的な仕組みを作りたい」といった目的を掲げて取り組んでいる活動が、いつの間にか活動がかわることや活動場所に行くことが目的化していると感じられることがあります。活動に参加することも活動場所に行くことも手段にすぎないのですが、目的と手段があべこべになってしまうことはボランティア活動に限らず誰にでも起こること。活動に没頭するあまり視野が狭くなってしまった時には「なんのための活動か」と思い起こしてみることが大切です。

OCVIC 相談会 ~あなたにピッタリの活動を一緒に考えます！~

予約制だから、「待たずに」「じっくり」
ご相談いただけます。

「ボランティア活動を始めてみたいんだけど、どんな活動が自分にあっているのかわからない」そんなあなたの悩みに、ボランティアコーディネーターがお答えします。またグループ運営の課題や研修の企画などのご相談にも応じています。



予約制で、事前に相談内容を伺い、コーディネーターが資料などを準備したうえで面談に臨むため、とても効率的です。お気軽にお申し込みください。

上手な相談術

あなたの「興味・関心」「特技・趣味」「希望や要望」など、できるだけ詳しく教えてください。

申込方法

「ボランティア相談会希望」と明記し、希望日と主な相談内容、住所、名前、年齢、連絡先を添えてEメールかお電話でお申し込みください。

開催日

=午後7時～ =午後1時30分～

【OCVIC開館時間】

黒字=午前9時30分～午後8時30分

青字=午前9時30分～午後5時 赤字=休館

ご相談は、相談会に限らず随時受け付けています。

9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

TEL:06-6765-4041 FAX:06-6765-5618

Eメール: ocvic@osakacity-vnet.or.jp

震災復興への願いも込めて「大阪城 城灯りの景」に今年も協賛

8月最後の週末、大阪城本丸広場・西の丸庭園・山里丸の大阪城一帯を約2万個のろうそく行灯で彩る「大阪城 城灯りの景」が開催されました。この催しは大阪城天守閣の復興70周年を記念に平成13年から毎年開催され、同金庫は5年連続で協賛、3千個の行灯を提供し幻想的な空間を演出しました。

今回はシンボルモニュメントとして西の丸庭園に、東日本大震災からの復興の願いを込めた「未来への階段」が登場したほか、西の丸庭園内迎賓館に、被災地に向けた復興支援メッセージ「迎賓館 光のメッセージ」が投影されるなど、震災復興への願いが込められました。直前の豪雨により点灯式はあいにく中止となりましたが、関連イベントとあいまって、子どもから大人まで楽しめる市民参加型イベントを同金庫役職員も多数参加して多いに盛りあげました。



城灯りの景に初めて登場した「未来への階

サロン開催情報

“一見さん”大歓迎の交流定例会！一度楽しい雰囲気のをぞいてみては？参加ご希望の場合は事前に各問合せ先まで電話でご確認ください

サロンにし(毎月第2土曜日)

10月の出会い:10月8日(土)午後2時~4時
テーマ・ワークショップ(体験参加型学習):トランプゲームを楽しもう!! 参加費:無料 会場:西区在宅サービスセンター
第1会議室(西区新町4-5-14 西区役所合同庁舎 6階)
問合せ:090-3949-6973(宮脇)

WILLこのはな(偶数月第1日曜日)

10月の出会い:10月2日(日)午後4時~6時
内容:みんなでバルーンアートを作ってみませんか!子供たちや知り合いに作って渡してあげると喜ばれるはず!!
パネラー:山崎雅代さん 参加費:無料
会場:マーシーオーガモン(此花区西九条3-14-2 1F)
問合せ:06-6461-0601(堀北)

サロン淀川(毎月第3日曜日)

10月の出会い:10月16日(日)午後1時30分~4時
内容:「届け東日本に、大人の昔話」なんじゃもんじゃの木の下でくつろいでください。ゲスト:なんじゃもんじゃの仲間 なにわ語り部の会 参加費:無料 会場:淀川区三国本町2-14-3「やすらぎ」 問合せ:06-6394-2900(淀川区VB)

サロンひがしな(毎月第3土曜日)

10月の出会い:10月15日(土)午後1時30分~4時
内容:町のおじいちゃん再登場!!「可愛い猫を作ります(キッチンペーパーで)」パネラー:山田富夫さん(淀川区在住)
参加費:無料 会場:東成区在宅サービスセンター 3階(東成区大今里南3-11-2) 問合せ:06-6977-7031(東成区VB)

サロン「アイ」(毎月開催)

9月の出会い:9月25日(日)午前9時30分~午後5時
テーマ:小さな旅「せんなん里海公園」ぼらぼら
集合場所:難波旧「新歌舞伎座」前 午前9時30分集合
持参するもの:弁当・雨具・飲み物・シート 参加費:無料(但し、交通費・昼食代等自己負担)
10月の出会い:10月8日(土)午後1時30分~4時
テーマ:東日本大震災・気仙沼にて パネラー:吉田恵美さん(生野区社協職員) 参加費:無料 会場:生野区在宅サービスセンター「おかちやま」2階ボランティアルーム(生野区勝山北3-13-20) 問合せ(9・10月両開催分):06-6712-3101(生野区VB)

サロンつるみ(偶数月第1日曜日)

10月の出会い:10月2日(日)午後1時30分~4時
内容:「ボランティアから見た被災地の現状」~東日本大震災の被災地ボランティアに参加した方々からの報告~
パネラー:林容子さん、竹村朋子さん、高橋誠さん
会場:鶴見区民センター(鶴見区横堤5-3-15)
参加費:無料 問合せ:06-6913-7070(鶴見区BV)

サロン・あべの

10月の出会い:10月10日(月・祝日)午後1時~5時
内容:出会い、ふれあい、さろん亭。~今年もよろしくお願ひします~
会場:あべのカーニバル会場・なんでも市通り(阿倍野区文の里1-1-40 阿倍野区役所の裏) 参加費:無料
問合せ:06-6691-1028(富田)

この他にも各地でサロンが開催されています。

【問合せ一覧】

サロン・にしよど(毎月第4土曜日) 090-9864-9678(中本)
ウィズ東淀川(奇数月第2日曜日) 06-6340-3082(鈴木)
てくてく・すみよし(偶数月第2土曜日) 06-6692-8411(山本)
サロン・ひがしすみよし(毎月第3土曜日) 090-2064-3852(寺内)
V B = ボランティアビューロー
()内は定例日ですが、変更の場合もありますのでご確認ください。

情報

求ム!



申込み方法

『COMVO』月号掲載希望』と記したうえで、下記の必要事項を明記し、郵送・ファックス・EメールにてOCVIC 大阪市ボランティア情報センターまでお申込みください。必要事項が記されているチラシ等をお送りいただいても結構です。

このコーナーは、ボランティアの募集情報や、ボランティア・市民活動に関するイベント・セミナーの告知情報を常時お待ちしております。どしどしお寄せください。

掲載無料

ボランティア募集の場合(総字数の目安:300字)

タイトル、団体名、呼びかけ文・活動内容、日時、場所、人数・条件、食事支給の有無、交通費支給の有無、申込方法・締切の設定、団体所在地、申込・問合せ先(電話・ファックス・Eメール・URL・担当者名)

イベント・セミナー等の告知の場合(総字数の目安:400字)

タイトル、団体名、呼びかけ文、日時、場所、内容(概要)、対象・人数、参加費、申込方法・締切の設定、団体所在地、申込・問合せ先(電話・ファックス・Eメール・URL・担当者名)

申込先

大阪市ボランティア情報センター 情報誌「COMVO」編集室
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センター1F
FAX:06-6765-5618 Eメール:ocvic@osakacity-vnet.or.jp

URL問合せ先

http://comvo.weblogs.jp / 06-6765-4041(担当:堀・秋田)
*本誌の発行日は毎月15日です。募集締切りは掲載希望号発行月の前々月末日とします(例:11月15日発行号に掲載希望の場合は9月末まで)*受付・掲載有無の確認は、編集室からご連絡しません。*申込み=掲載確定ではありません。紙面に限りもあり、ご希望に添えない場合があります。*記事掲載にあたって、写真や担当者(あるいはボランティア)のコメントの提供をお願いする場合があります。*掲載された場合は、編集室から問い合わせや申込状況などの反響についてお尋ねする場合があります。*個人発信の掲載は行っていません。ご希望の場合はOCVICまたは市内ボランティアビューローまでご相談ください。

無邪気さと深い悲しみの 両方を受けとめて

テレビ画面でみていた被災地に自らの足で訪れ驚いたのは、被災地の惨状とは対照的に、元気で無邪気な子どもたち。しかし、笑顔の裏には、想像だにできない悲しみがありません。

村井 裕次郎さん(左)、西田 雅崇さん(右)

「受験は来年でもいいから」

8月初旬、東日本大震災の被災地に大阪の元気を届けようと、大阪市内で地域コミュニティづくりに取り組み「市民フォーラムおおさか実行委員会(下段参照)」が宮城県石巻市内で地元住民との交流プログラムを持ちました。市内の鹿妻東公園を会場に、お菓子づくりや子ども遊び、ハンドマッサージなど、多彩なプログラムが展開されました。以前から「被災地で役に立ちたい」と考えていた四天王寺羽曳丘高校3年生の西田雅崇さんと村井裕次郎さんは、軽音楽部の仲間同士。今回の企画への参加を決め「音楽演奏」を担当することにしました。ギターを抱えて遠くのまちで演奏するのは2人とも初めて。バスの中では平静を装いながらも「喜んでもらえるのか不安でしたががなかつた」と村井さん。西田さんも「受験は来年でもできる。被災地で力になれるのは今しかない」と現地行きに反対する親を説き伏せてきただけに、後へは引けない思いでした。

聴衆のいないライブ

1日目。二人が好きな「コブクロ」の曲を演奏。しかし誰も聴く人がいません。それもそのはず、会場に来ていたのは子どもと高齢者が中心で、コブクロの曲を知る人がいなかったのです。「誰も聞いてないならやる意味ないやん」と心が折れかけた村井さんを「何のために来たんや」と一蹴し、西田さんは一人で歌い続けました。そんなふたりの様子をみかねたフォーラムの参加者が「子ども向けに『マルモリ』がええんとちがう?」と選曲をアドバイス。「マルモリ」はドラマのエンディングにも使われ、踊りながら歌える子どもに人気がある曲です。その晩西田さんが譜面を起こし、ふたりで宿舎の駐

車場の端で練習しました。フォーラム参加者の女子高生に踊りを頼んだこともあり、2日目のライブは大盛況。「部活なら自分の好きな曲でいいけど、喜んでもらうためには聴く人の立場で考えねばと反省させられました」と村井さんは振り返ります。

真顔で「一人だけね」

演奏の合間の休憩時間に、子どもたちが声をかけてきました。特に親しくなったM君は小学校2年生ぐらい。「肩にあがってくるわ、楽譜を盗んで自転車で走り回るわ、明るさに圧倒されました」と村井さん。M君が「あの木のところに死体があった」というので何気なく「家族は無事だった?」と尋ねるとM君は急に真顔で「一人だけね」と答えたのです。つまり、家族は一人を除いてみな亡くなったということ。小学生でありながら、高校生の二人には計り知れない深い悲しみを経験したM君と向き合い、「ライブがウケずしょげていた僕より、明るくふるまうM君の方がよっぽど大人」と村井さんは話します。

無力感さえ、明日の糧に

大阪へ帰るバスの中での気持ちを西田さんはこう話します。「活動を終えた充実感からハイになりながらも、ホツとしていました。でも同時に、いろいろな人と出会い、喪失感や無念さもじわじわと湧いてきました」。

落ち込んだり、励まされたり、盛りあがったり、越えられない壁に気づいたり、無力感にさいなまれたり。わずか3泊4日の活動でしたが、東北で直接出会い、向き合ったさまざまな人との交流は、ふたりの心の中に、確実に何か新しい種をまいたようでした。

こぼれ話 市民フォーラムおおさか2011

「被災地での交流と体験プログラム～被災地に元気を届けよう～」とは

「市民フォーラムおおさか実行委員会」(事務局:大阪ボランティア情報センター)は、希薄になった人間関係をさまざまなテーマを通じて地域コミュニティの中で紡ぎ直そうと取り組んでいます。今回の企画は、実行委員長の窪田新一さんが地元住民からの相談に応え、5月に石巻を訪れたのがきっかけ。お菓子づくりや子ども遊び、ハンドマッサージなどの癒しのプログラムのほか、仮設住宅などを回り福祉ニーズを掘り起こすまち歩きなども行いました。

総勢40人が参加した今回の企画を振り返り、窪田さんは「今回の参加者全員の思いが被災地に伝わり、優しさや強い精神力で全員が輝いていました」と話します。



「9.23大阪からの元気を届けようチャリティバザール」ぜひご参加を!

東日本大震災でおおきな被害を受けた東北地方の復興に貢献するため、また大阪での避難生活を余儀なくされている方々同士や大阪府民との交流の場を作るために、東北地方の物産販売を中心としたチャリティイベントを開催します。皆さん、ふるってご参加ください。

日時 9月23日(祝・金)午前10時～午後3時
会場 マイドームおおさか1階展示場(中央区本町橋2-5)
参加費 無料

内容 東北・大阪の物産販売、コンサート、食べ物コーナーなどのほか、東北コーナーではお餅つきをして、大阪に避難されている方々の手作りの芋煮とずんだ餅を提供します。キッズコーナーでは「かえっこバザール」を行ないますので遊ばなくなったおもちゃを持ってきてください。

主催 大阪から元気を届けよう実行委員会(大阪労働者福祉協議会、連合大阪、大阪府・大阪市・堺市社会福祉協議会、NPOふるさと回帰支援センター、その他賛同団体)

問合せ 大阪市ボランティア情報センター(連絡先はP.14下段参照)

活動レポート

大阪市社協・第10回 被災地支援ボランティアバス

8月23日～27日まで(現地2泊・活動3日)、岩手県陸前高田市での活動を行ったボランティアバスには男性22人女性10人、総勢32人(14歳～69歳)が参加しました。夏休み期間中ということもあり、20歳前後の若者の参加が多く、全体の約8割が被災地での活動を初めて経験する参加者でした。

雨が心配される予報は良い方にはずれ、3日間とも時折晴れ間も見える中、8月初旬になって初めてボランティアが支援に入るようになったという、同市広田町字長洞地区内にある沿岸沿いの広大な田んぼで、草むしりや泥に埋もれた水路の掘り起こし等を行いました。現場では富山からのボランティアや岩手県内の高校生などと一緒に活動し、共に汗を流しました。途中、依頼主の方が当時の状況や農業再開に向けた思いなどをお話してくださったほか、最終日には近隣の仮設住宅の住民も様子を見に来てくださり、自らの被災状況や先が見通せない不安などについてお話しして下さったうえで感謝の気持ちを伝えてくださいました。

草むしりや水路の掘り起こしといった作業の向こう側にある地元住民の営みに想いを馳せ、いつの日か田んぼに稲穂が垂れる日を一緒に夢みたいと顔に汗したボランティアの面々でした。



土砂やガレキを取り除きながら水路を掘り起こすボランティア。水路にたどり着くたび歓声があがる

ミニレポート

地域コミュニティと向き合う防災! 「子どもとおとなの災害ボランティア養成講座」開催

8月11日、西区ボランティアビューローが主催した講座には、約20人が参加。タイトルのとおり大人や子どもが一緒になって、防災について楽しく考えるひと時となりました。

まずは日ごろから常備しておきたいグッズについて、(株)ダイワサービスの藤田千賀子さんが実物を手に取りながら具体的な使用方法などを紹介。次に「クロスロード」というカードゲームを通じ、いつ起こるか分からない災害について、さまざまな立場になって考えました。

参加者が共有したのは「答えは1つではない」こと、また「その場の状況でその答えも変わるかもしれない」こと。普段から災害をイメージし、実際に起こった時に対応できる力を養う必要性も感じた様子でした。

参加者が最も大切だと感じたのは「地域コミュニティ」でした。「普段から、どこにどんな施設があるか、どんな人が周りに住み、コミュニケーションが取れているかを意識できていれば、日頃のお付き合いの中で救われる命がある」とボランティアコーディネーターの水野恵子さんは語りかけます。講座は非常食を作って昼食をとるところまで。「最初はおいしいと思うが、これが毎日続いたらどうだろう」といった声も聞かれ、今回の震災に思いを馳せる参加者もいました。



わいわいと楽しくにぎやかに非常食を作る参加者

大阪市ボランティア活動振興基金助成事業のご紹介 在日コリアン高齢者ふれあいサロン事業

22年度地域福祉・市民活動協働推進事業助成

生野区鶴橋にある参尊寺の2階で、毎週土曜日にふれあいサロンを行っています。区内の在日コリアンは済州島出身者が多く、文化的な違いから、孤立しがちな高齢者の孤独感の解消と介護予防を目的に、地域の中でくつろぎの場となることをめざしています。サロンでは、済州島独特の料理をもてなしたり、利用者と一緒に料理をすることもあります。週に一度、顔を見せ合うことで、安否確認にもなりますし、平日にも利用者を訪問ないし電話連絡を行い、きめ細やかなサービスを実施して利用者に喜ばれています。(主催:NPO法人国際友好促進会)



日本語と済州島の言葉が混ざって賑やかなサロン

アンケートにご協力ください！

COMVOではよりよい誌面づくりのため、読者の皆さんに毎月アンケートのご協力をお願いしています。あなたのご意見や感想をお聞かせください。

アンケートの回答と併せて希望商品名をお書きください。

あなたのボランティア活動歴を教えてください。

なし 1年未満 1~4年 5~9年 10年以上

あると答えた人は活動内容を覚えている範囲で簡単に教えてください。

今号を読んでいかがでしたか。(ひとつ)

活動に興味・関心がわいた 活動を探してみた

活動に参加した 既に取り組んでいる活動の参考になった

特になし

今月号で良かった記事はなんですか？

今月の意見募集テーマ

災害時に誰も取り残される人が出ないようにするために日頃から地域のコミュニティでできそうなことについて、ご意見をお聞かせください。

その他、ご意見・ご感想をご記入ください。

名前:() 性別:(男・女)

住所:(〒)

職業: 学生・会社員・自営業・公務員・主婦・無職・その他()

年齢:(歳) 電話番号:()

本誌入手先: 地下鉄(駅)・その他()

読者歴: 初めて 1年未満 1~2年 3~4年 5年以上

ご希望商品名()

キリトリ

読者プレゼント

アンケートにご協力いただいた人の中から抽選で合計5人様に素敵な商品をプレゼントします。

1 MOLESKINE

ウィークリーダイアリー

2人様

200年もの歴史を誇る伝説のノートブック「モレスキン」の2012年版ダイアリー。使いやすさと便利さ、日常の酷使に十二分に持ちこたえるタフさは多くの作家、画家、ジャーナリストなどに幅広く愛用されています。



キリトリ

アルファ米セット

3人様

お湯をそそぐだけで炊きたてのごはんが味わえるアルファ米製法の非常食品。どこでも、カンタンに、どんな状況でも取ることができるので、もしものときのための備蓄はもちろん、ちょっと小腹が空いたときなどにも便利です。(白飯、五目ご飯、ドライカレー、梅がゆを各2食の8食セット)



応募方法

左上のフォームに必要事項を記入し、FAX送信するか、切り取ってハガキに貼付のうえ郵便でOCVICまでお送りください(宛先は左記参照)。パソコン・ケータイからも応募できます。

締切日:2011年10月10日(消印有効) 当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。お預かりした個人情報、本誌がどれだけ活動参加につながる効果があるのかの把握と、記念品送付の目的にのみ使用します。また、募集したテーマについてのご意見を誌面に掲載する場合がありますが、個人が特定される記載は行いません。

パソコン・ケータイからの応募はこちらから！

<https://www.formzu.net/fgen.ex?ID=P58784060>

専用フォームに入力するだけで簡単に応募できます。



ケータイ用



パソコン用

ケータイからのアクセスでは一部正しく表示されない機種があります。その場合は恐れ入りますが、パソコンからアクセスをお願いします

企画・発行



社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

大阪市ボランティア情報セン

Osaka City Volunteer Information Center

所在地 / 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センター1F

06-6765-4041 FAX 06-6765-5618

E-mail ocvic@osakacity-vnet.or.jp

<http://www.osakacity-vnet.or.jp>

開館時間:午前9時30分~午後8時30分

(土曜日は午後5時まで)

休館日:日・祝・国民の休日・年末年始

発行日:2011年9月15日(毎月15日発行)

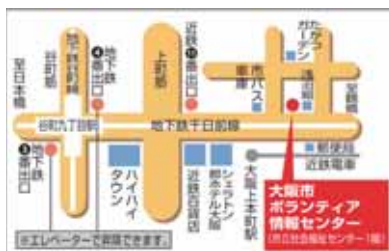
発行部数:40,000部

制作協力:株式会社 アド・エモン

ホームページ編集:NPOぽこ・あ・ぽこ

本誌は大阪府共同募金会の助成をいただいています

ふれあいネットワーク



「COMVO」主な設置・配付場所

ウェブサイトからもチェック可能! <http://comvo.weblogs.jp/>

大阪市営地下鉄(新大阪・淀屋橋・本町・なんば・天王寺・なかもず・大日・太子橋今市・天神橋筋六丁目・東梅田・天満橋・谷町九丁目・喜連瓜破・住之江公園・大阪港・堺筋本町・野田阪神・日本橋・天下茶屋・大正・蒲生四丁目・ポートタウン東各駅)、近鉄電車(大阪難波・阿部野橋・大阪上本町各駅)、阪神電車(梅田駅)、大阪市サービスカウンター(梅田・難波・天王寺)、各区在宅サービスセンター(区社協)、大阪市役所・区役所、区民センター、クレオ大阪、大阪市内の図書館、大阪市立総合生涯学習センター・市民学習センター各館、大阪市商店会総連盟加盟商店街、大阪市信用金庫内57店舗など